

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校  
教諭 〇〇〇〇

## 1 学年・学級・領域・実施日時

3年〇組 「読むこと」  
平成21年〇月〇日 (〇)

## 2 育成を目指す言語能力

- 紀行文『おくのほそ道』を読んで、人間、社会、自然について考え、自分の意見をもつこと。  
(「C読むこと」指導事項エ)

## 3 教材名

- 古典を楽しむ「夏草 『おくのほそ道』から」

## 4 教材について

### ○ 教材観

本教材は、代表的な紀行文であるとともに俳人松尾芭蕉の作品として著名な俳句も多く収められており、古典の学習としても俳句の学習としても中学3年間のまとめをするのにふさわしい教材である。また、格調高い文章のリズムも魅力であり、音読によってその味わいを実感することができる教材である。

旅をする芭蕉のそのときどきの心情を、「人生は旅である」という芭蕉の人生観にふれることをとおして、想像力を働かせ豊かに読み味わうことができる教材でもある。

さらに、俳句がその場面の内容を集約しており、地の文と俳句を対照して読みを深めることができる教材である。

### ○ 生徒観

全体的には学習に積極的に取り組み、発言を頑張る生徒も多いが、反面基本的な学力(語彙力、文法的事項など)定着していない生徒が多く、継続した復習が必要だと考える。

また、無気力な生徒も多く、国語の学習は面倒くさいとはじめからあきらめている生徒もいる。

### ○ 指導観

春に俳句を学習し、5・7・5音(12音)の短い言葉に込められた作者の思いを想像することで、12音の言葉には表れていないが、その裏にはあふれる思いがあることを実感した。本教材では俳句だけでなく古文の中から読み取ったことを踏まえ、俳句に込められ作者の心情を想像力を働かせ豊かに読み味わい、時代を超えて共通する人間の感情に気づき、自分なりの感想をもつように指導したい。

なお、内容の読み取りの際には、地の文と絵地図を対照させたり、地の文と俳句を対照させたりすることにより、地の文の内容の理解がしやすくなるよう手助けし、主体的に読み取ろうとする意欲を喚起したい。

さらに、小グループによる活動を仕組むことにより生徒の学習に対する意欲を喚起したい。

## 5 指導法の工夫

- 集中力を持続させるために音読練習の方法に変化をつける。

(音読練習カード 小グループなど)

- 俳句に込められた思いの豊かさを思い出すことができるよう、以前の俳句の学習で書いた鑑賞文を紹介する。

- 地の文の内容の理解がしやすくなるよう絵地図を提示する。

- 前時の学習内容を想起させるために、導入時に前時に学習した内容についての一問一答を位置付ける。

- 課題を解決することが困難な個々の生徒に対して、自力で内容が理解できるように、現代語訳の分かるワークシートを用意する。

7 指導計画 (全6時間)

第1時 冒頭部分「月日は」の部分をくり返し音読させ、古文独特のリズムを読み味わう。

第2時 冒頭部分「月日は」の古文と現代語訳を対照することで、描かれている情景や作者の心情、考え方をつかむ。

第3時 「平泉(前半)」での芭蕉の足取りや何を見ているのかを絵地図と地の文を対照することにより描かれている情景を読み取る。……(本時)

第4時 俳句と地の文を対照することにより、俳句を詠んだ芭蕉の心情を読み味わう。

第5時 「平泉(後半)」の内容をつかみ 描かれている情景や心情を読み味わう。

第6時 学習のまとめとして、作者のものの見方、感じ方に対する感想を交流する。

8 単元の評価の観点

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
具体的評価規準	○ 『おくのほそ道』の学習を楽しんでいる。	○ 『おくのほそ道』を読んで、芭蕉の生き方について考え、人の生き方について自分の意見をもっている。	○ 漢文調の言い回し、対句的な表現の特徴を理解している。
Aの状況を実現していると判断する際のキーワードと具体的な姿の例	○ 『おくのほそ道』の学習を楽しみ、古典に関する発言や記述が見られる。	○ 『おくのほそ道』を読んで、芭蕉の生き方について考え、人の生き方について日常の自分の生活に結びつけた表現が見られる。	○ 何度も音読練習に取り組み、対句的な表現を読み味い、その音読にリズムが感じられる。
Cの評価をした生徒に対する手立ての例	○ 『おくのほそ道』に興味をもてるように、音読の練習方法に変化をつけたり、一問一答式の発問をしたり、小グループによる活動を取り入れたりする。	○ 内容を理解しやすくなるよう現代語訳を示す。	○ 小グループを利用し仲間とかかわることで意欲的に学習できるようにする。

9 本時

(1) ねらい

○ 「平泉(前半)」での芭蕉の足取りや何を見ているのかを確認することで場面の情景を読み取る。

(2) ねらいを達成するための言語活動

○ 絵地図と地の文を対照する。

(3) 評価の観点

	読む能力
具体的評価規準	○ 地の文と絵地図を対照し、作者がどこにいて何を見ているのかを読み取っている。
Aの状況を実現していると判断する際のキーワードと具体的な姿の例	○ 地の文と絵地図を対照し、作者がどこにいて何を見ているのかを文中の語句を根拠に説明している。
Cの評価をした生徒に対する手立ての例	○ 脚注に場所を表す言葉に関するヒントがあることを伝える。 ○ 地の文の中で場所を表す言葉をヒントとして与える。

(4) 本時の展開

学 習 活 動	○ 指導・ ◇ 支援	評 価
○ 前時の学習内容を振り返る。	○ 前時で学習した内容を一問一答式で発問する。 ◇ 言葉の意味のような単純なものからしだいに本時のねらいに迫るような内容の発問へと移行していく。	<b>関</b> ノートを見ながらでもよいので積極的に発言しようとしている。
○ 「平泉」(前半)を音読する。 ○ 本時の目標を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>重要発問 (指示)</b> 芭蕉はどのような気持ちで「夏草や兵どもが夢の跡」という俳句を詠んだのかを探る(次時の目標の)ために、 <b>「平泉」での芭蕉の足取りを読み取ろう。</b></p> </div>		
○ 地の文と絵地図を対照し、芭蕉の足取りを読み取る。  ○ 小グループで確認し合う。 (必要に応じて指示) ○ 場所を絵地図で確認する。	◇ 模造紙大の平泉の絵地図を提示することにより、「平泉」(前半)の地の文に書かれている内容についてイメージがもてるようにする。  ◇ 小グループで確認する活動を仕組むことにより学習意欲を喚起する。 ◇ 必要に応じて援助発問を行い、内容を理解するためのポイントを焦点化し伝える。	<b>読</b> < Bの姿 > 地の文と絵地図を対照し、作者がどこにいて何を見ているのかを読み取っている。  < Aの姿 > 地の文と絵地図を対照し、作者がどこにいて何を見ているのかを文中の語句を根拠に説明している。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>援助発問 (指示)</b> 地の文の中から、場所を表す言葉を探して絵地図で確認しよう。</p> </div>		
(必要に応じて指示) ○ 芭蕉がいる場所を絵地図で確認する。	◇ 脚注を利用することにより、地の文の中にある場所を表す言葉が確認できることを知らせる。 ◇ 必要に応じて援助発問を行い、内容を理解するためのポイントを焦点化し伝える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>援助発問 (指示)</b> 芭蕉がいる場所はどこかを確認しよう。</p> </div>		
(必要に応じて指示) ○ 芭蕉が何を見ているのかを絵地図で確認する。	◇ 芭蕉がいる場所が2か所描かれていることを知らせ、読み取るポイントを焦点化する。 ◇ 必要に応じて援助発問を行い、内容を理解するためのポイントを焦点化し伝える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>援助発問 (指示)</b> 芭蕉がその場所から何を見ているのかを確認しよう。</p> </div>		
○ グループの協議結果を発表し、聞き合う。	◇ 芭蕉がその場所から見ているものが描かれていることを知らせる。 ○ 芭蕉の足取りを発表する際、グループで考えた理由を述べるよう指示する。	
○ 授業の振り返りカードを書く。		